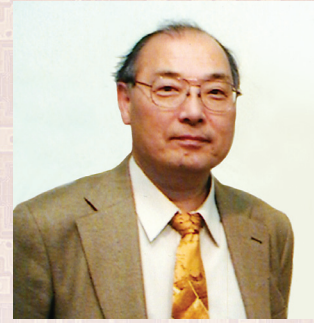


科学よもやま話

第11回

古さと新しさの同居ー ベルギーの先端技術研究

佐藤勝昭



今月のスケッチは、路地裏から見たリュウベン（ベルギー）の市役所です。ゴシック様式のこの建物は、15世紀に建造されたヨーロッパで最も美しい市役所だといわれています。この建物の壁のくぼみ(ニッチ)には236もの彫像が置かれていて、その豪華さを演出しています。彫像の設置は19世紀の文豪ピクトル・ユゴーの勧めで始まりました。1階には芸術家や法王の彫像が、最上階にはこの地方を支配した君主たちの彫像が飾られています。興味深いのは2階の彫像で、当初予定したキリスト教の聖人の彫像を変更して、職人、商人、政治家などの彫像を飾ることで資金を集めたのだそうです。

この地には、ベネルックスで最も古いリュウベ



路地裏から見たリュウベン市役所 佐藤 画

ンカトリック大学(KUL)があります。設立は1425年ですから日本で言えば室町時代です。学生数28,000人(うち留学生3,000人)というマンモス大学です。KULが人口80,000人のリュウベンの経済を支えているといっても過言ではありません。

KULのキャンパスに隣接して欧州のマイクロエレクトロニクス研究の牙城IMEC(国際マイクロエレクトロニクスセンター)があります。ベルギーは、フラマン語(オランダ語の一方言)地域と、フランス語地域に分かれています。ハイテク立国をめざすフラマン語地域の政府の肝いりで1984年に設立されました。面積5,000m²と3,200m²の2つの最先端のクリーンルーム棟を有する高度研究施設です。

この研究所は、地域のLSI産業および、KULとの密接な連携のもとにハイテク研究を進めると同時に、国際連携にも熱心に取り組み、米国、日本、中国にもオフィスを持ち、日本はじめ48ヶ国から研究者を受け入れています。

運営費1億5千ユーロの62%を負担するのは外国の企業で、地元企業の負担は24%に過ぎません。基礎研究重視の欧州にあって、IMECは先進技術の開拓の先頭に立つ希有な存在です。オランダのフィリップスは45nmルールのCMOSプロセスにIMECで開発された技術の成果を活かそうとしています。

古さ(伝統)と新しさ(先進技術)の同居、地域振興と国際化の調和、大学と産業の連携…等々、IMECの努力は欧州で高く評価されています。わが国も、国家・地域の枠を超えて先端技術の進展を図る欧州の知恵に、学ぶべきところがたくさんあるでしょう。

(東京農工大学 副学長)